

## イエスの教え -2- 聖書通信 12

今日も山上の垂訓の続きを考慮したいと思います。  
今回は特に平和を追い求めることの大切さに注目しています。

### 誓ってはならない

当時の人々はすぐに神にかけて誓ったようです。  
それに関してイエスは次のように述べています。

5:33 また昔の人々に『いつわり誓うな、誓ったことは、すべて主に対して果せ』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:34 しかし、わたしはあなたがたに言う。いっさい誓ってはならない。天をさして誓うな。そこは神の御座であるから。

5:35 また地をさして誓うな。そこは神の足台であるから。またエルサレムをさして誓うな。それは『大王の都』であるから。

5:36 また、自分の頭をさして誓うな。あなたは髪の毛一すじさえ、白くも黒くもすることができない。

5:37 あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、否、否、であるべきだ。それ以上に出ることは、悪から来るのである。

正直に行動するならわざわざ誓わなくても、信頼される人になることが出来ます。誓ってそれを果たさないなら、人からの信頼を失うだけでなく、神からみても罪あるものとなってしまふことを警告しました。

### 手向かうな

常に平和追い求めるようにイエスは教えました。

5:38 『目には目を、歯には歯を』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:39 しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。

5:40 あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。

5:41 もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。

5:42 求める者には与え、借りようとする者を断るな。

有名な聖句ですが、暴力を受けている時になすがままにされても良いという意味ではありません。

「右の頬を打つ」という行為は侮辱することを意味しています。侮辱を耐え

るように勧めていたのです。  
そのように平和を追い求めるなら、多くの人々との良い関係を楽しめるでしょう。  
それだけではなく平和を追い求める人には必ず神の祝福があります。

### 敵を愛せよ

愛をさらに広げ、敵をも含むようにイエスは教えました。

5:43 『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

5:45 こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。



神は全ての人に光と雨を与えて下さる

5:46 あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるだろうか。そのようなことは取税人でもするではないか。

5:47 兄弟だけにあいさつをしたからとて、なんのすぐれた事をしているだろうか。そのようなことは異邦人でもしているではないか。

5:48 それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。

キリスト教の最大の特徴と言っても過言ではありません。  
前回で述べたマハトマ・ガンジーもこの教えに特に感銘を受けていました。  
確かにこの基準に本当に従うなら、世界は平和になるに違いありません。

さらにイエスの教えは続きます。

### 人の目ではなく神を意識せよ

私たちは「他の人から見てどのように見られているのだろうか」と気にする傾向があります。

しかしイエスは「神の目から見てどのように見られているか」を考えるように教えました。

6:1 自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意しなさい。もし、そうしないと、天にいますあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。

6:2 だから、施しをする時には、偽善者たちが人にほめられるため会堂や町の中でするように、自分の前でラッパを吹きならすな。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

6:3 あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。

6:4 それは、あなたのする施しが隠れているためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。

人からの栄光はむなしなものであることを教えました。  
しかし神からの栄光は真の報いを与えるものであることを示しました。

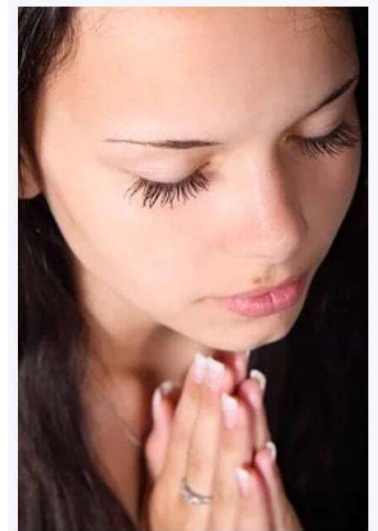
## 真の祈り

神は祈りを聞いて下さるのでしょうか。  
真の祈りとは何でしょうか。

6:5 また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

6:6 あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。

確かに全能者である神は人々の誠実な祈りに耳を傾けられます。



真の祈りとは・・・

## 祈り方

呪文のように繰り返す祈りをイエスは否定しています。

6:7 また、祈る場合、異邦人のように、くどくどと祈るな。彼らは言葉かずが多ければ、聞きいれられるものと思っている。

6:8 だから、彼らのまねをするな。あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。

神は全てを見ておられます。祈りは神との交流であり、感謝の表れであるべきと諭しています。

## 主の祈り

どのように祈れば良いのでしょうか。  
イエスは一例を挙げて教えています。

6:9 だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

6:10 御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。

6:11 わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

6:12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。

6:13 わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。

まず神の栄光を求め、その後個人的な必要について祈ることが出来ることを示しました。

## 人を許せ

平和を求める点で重要なことは何でしょうか。

6:14 もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。

6:15 もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。

そうです。許すことです。

心から許すなら平和を楽しむことが出来るでしょう。

## 断食

当時断食が一般的に行われていました。(パリサイ人は週に2回断食する習慣があったようです。)

それに関してイエスは次のように語られました。

6:16 また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言っておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

6:17 あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

6:18 それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においでになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。

ここにも人からの栄光ではなく、神からの栄光を求めるように諭しています。

今回は 山上の垂訓の3回目で、平安な思いで歩むための秘訣を考えてみたいと思います。